

News Release

カーボン・ディスクロージャー・プロジェクトとアクセンチュア、マイクロソフト、SAP が、グローバル気候変動データおよびレポーティング・プラットフォームの確立で提携

※この報道参考資料は、米国・ニューヨークで現地時間 2009 年 9 月 24 日に発表されたアクセンチュアグローバルニュースリリースの意識です。

【米国・ニューヨーク発、2009 年 9 月 24 日】

企業の気候変動情報に関する世界最大のデータベースを保有する独立系の非営利組織、カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト（以下、CDP）は本日、グローバル気候変動情報開示システムを改善および強化する計画を発表しました。このシステムは、機関投資家、企業、世界各国の規制システムで使用するために収集された、企業の温室効果ガス排出量の実績に関する一次情報を提供するもので、温室効果ガス排出量の削減および実績の改善を推進するために利用されます。気候変動や企業の温室効果ガス排出量に関する質の高いデータを提供することは、京都議定書以降のグローバルな気候変動枠組みにとって重要であると同時に、政府規制と企業の気候変動報告とを橋渡しする役割も果たしています。

2010 年以降、企業はこの新しいデータシステムを使用して CDP に報告を行います。その結果、世界規模で情報開示の質が高まり、“より詳細かつ一貫性があり、比較可能でアクションにつながるデータ”を求める投資家の要求にも応えることができるようになります。また、一元的でアクセス性に優れたレポーティング・プラットフォームを通じて、強化されたツールとガイダンスが提供されるため、企業にとっても報告手順を合理化できるメリットがあります。さらに、このプラットフォームによって、機関投資家、企業、および世界各国の規制システムもデータを簡単に入手し、分析できるようになります。強化された CDP システムでは、よりユーザーフレンドリーな情報が提供されるため、企業の気候変動に関する情報を財務上および戦略上の意思決定においてより有効に活用できます。

CDP は、アクセンチュア、マイクロソフト、SAP といった世界の主要コンサルティング企業やテクノロジー企業と提携し、このデータシステムの新版を作成しています。

温室効果ガス排出量の測定、報告、および検証は、気候変動による影響に対応しようとする企業にとって重要です。これによって企業は、エネルギー効率化策を見つけることによりコストを削減し、ビジネスに対する気候変動関連の

リスクを低減し、更には商機を明らかにすることができます。また経営陣は、戦略方針、イノベーション、投資計画に関する選択肢をより包括的に評価することもできるようになります。企業は温室効果ガス排出の主な原因を明確にすることでそれらをより適切に管理することができるようになるだけでなく、今後制定される規制にも対応できるようになります。

CDP の最高責任者、ポール・ディキンソン (Paul Dickinson) 氏は、次のように述べています。「気候変動はグローバル規模で解決すべき世界的な課題です。新たに改善されたデータツールと機能によって、我々は質の高い気候変動データを世界中で共有し、最終的には各国の既存の規制システムとも統合されるような、世界に誇れるレポーティング・プラットフォームを提供します。この世界レベルでの情報ハブは、京都議定書以降のグローバルな協定を支援するうえで非常に重要なものだと考えています」

CDP は、実装パートナーのコンソーシアムを組織しました。アクセンチュアは、ソリューション・インテグレーターとして、新しいレポーティング・プラットフォームの実装に関し戦略的コンサルティングを提供します。アクセンチュアで経営コンサルティングおよびグローバルマーケットのグループ・チーフ・エグゼクティブを務めるマーク・フォスター (Mark Foster) は次のように述べています。「温室効果ガス排出量に関する効果的な情報開示は、企業の投資リスクを緩和するとともに、より持続的な成果の達成に役立ちます。CDP が提供するこのデータシステムは、情報を簡潔に、標準的に、また透明性高く開示できるため、温室効果ガス排出量を報告するデファクトスタンダードとなり、世界の企業や政府が行動を起こす上で欠かせないツールとなるでしょう」

マイクロソフトは、新しい CDP プラットフォームのあらゆる側面におけるデータ取得を担当し、企業がより詳細で標準化された気候変動情報を報告できるようサポートします。マイクロソフトの環境戦略担当役員、ロブ・バーナード (Rob Bernard) 氏は次のように述べています。「環境データの収集と追跡は、現在、企業が直面している課題の中でも最大級のテーマです。テクノロジーとイノベーションは、世界の環境問題を解決するソリューションを推進する上で重要な役割を果たします。マイクロソフトは CDP のパートナーになることを光栄に思います。我々は、企業が透明性の高い報告を行い、業績と環境の両面でプラスの効果をもたらす意思決定を支援するソフトウェアソリューションを提供していきます」

SAP は SAPR BusinessObjects の BI OnDemand ソリューションを活用して、温室効果ガス排出の情報開示レポートおよびダッシュボードを保存し、ユーザーに配信します。SAP のカーボンインパクト担当副社長兼ゼネラル・マネジャーのアニルバン・チャクラバルティ (Anirban Chakrabarti) 氏は次のように述べています。「CDP の温室効果ガス排出量のベンチマーキング分析を強力にサポートする SAP のテクノロジーによって、世界中の企業、投資家、および政府は温室効果ガス排出削減目標の達成状況を明確に把握できるようになります。SAP および 89,000 社の当社のお客様の温室効果ガス排出量の削減は、我々にとって最も重要な戦略課題であり事業運営上の課題です。SAP のテクノロジーを活用することで、当社のお客様は温室効果ガス排出量を測定、報告、および削減でき、ビジネスネットワークの効率を向上できます」

なお、本発表の詳細については、<http://www.cdproject.net/disclosure-system.aspx> (英語) をご覧ください。

CDP について

CDP (カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト) は、企業の気候変動情報に関する世界最大のデータベースを保有する独立系の非営利組織です。CDP は機関投資家、企業買収組織、および政府機関に代わり、年 1 回の情報開示請求を実施することでデータを収集しています。2000 年の設立以降、CDP の情報は温室効果ガス排出量に関する情報開示の方法論および手順における事実上の標準となっており、重要な気候変動関連データを世界市場に提供しています。

CDP の Investor CDP プログラムは、約 475 の機関投資家を代表し、気候変動に関するデータを世界中の大企業から収集して、世界市場に向けて投資リスクや投資機会に関する情報を提供しています。Investor CDP プログラムの管理下にある統合資産は 55 兆ドルを超えています。また、CDP は民間および公共の組織と協力してそれぞれのサプライチェーンから気候変動データを収集するだけでなく、世界の主要都市における温室効果ガス排出量の削減と持続可能な開発を推進するために地方自治体とも連携しています。世界で約 2,500 社の大手企業が、CDP を通じて温室効果ガス排出量、および気候変動によって生まれるリスクと機会について報告しています。

CDP は、登録済み慈善事業（第 1122330 号）です。米国では、501 条(c)号第 3 項に規定される慈善団体としての認定を得るため、ロックフェラー財団が CDP の後援組織となっています。詳しくは、<http://www.cdproject.net/>（英語）をご覧ください。

マイクロソフトについて

1975 年に設立されたマイクロソフト（Nasdaq: MSFT）は、人と企業がすべての潜在力を発揮できるよう支援する、ソフトウェア、サービス、およびソリューション分野の世界的リーダーです。

SAP について

SAP は、ビジネスソフトウェア(*)の世界的大手プロバイダーで、25 を超える業種であらゆる規模の企業が最善のビジネスを運営することをサポートするアプリケーションおよびサービスを提供しています。世界 120 カ国以上で 89,000 社を超えるお客様を擁する SAP は、フランクフルトやニューヨークなど、複数の証券取引所で「SAP」の銘柄で上場しています。詳しくは、<http://www.sap.com/> をご覧ください。

(*) SAP では、統合基幹業務システム（ERP）と関連アプリケーションで構成されるものをビジネス・ソフトウェアと定義しています。

アクセントチュアについて

アクセントチュアは、経営コンサルティング、テクノロジー・サービス、アウトソーシング・サービスを提供するグローバル企業です。豊富な経験、あらゆる業界や業務に対応できる能力、世界で最も成功を収めている企業に関する広範囲に及ぶリサーチなどの強みを活かし、民間企業や官公庁のお客様がより高いビジネスパフォーマンスを達成できるよう、その実現に向けてお客様とともに取り組んでいます。世界 120 カ国のお客様にサービスを提供する約 17 万 7 千人の社員を擁するアクセントチュアは、2009 年 8 月 31 日を期末とする 2008 年会計年度の売上高は、約 215 億 8 千万 US ドルでした（2001 年 7 月 19 日 NYSE 上場、略号：ACN）。

アクセントチュアの詳細は

www.accenture.com を、

アクセントチュア株式会社の詳細は

www.accenture.com/jp をご覧ください。

アクセントチュア株式会社

マーケティング・コミュニケーション部

田中 朝子、吉野 淳子

045-330-7157

accenture.jp.media@accenture.com

アクセントチュア株式会社 広報デスク

株式会社バーソン・マーステラ

大塚 美津子、相庭 詠子

Tel: 03-3264-6791

E-mail: Accenture.PR@bm.com

(以下原文)

The Carbon Disclosure Project Partners with Accenture, Microsoft and SAP to Establish the De Facto Global Climate Change Data and Reporting Platform

NEW YORK; Sept. 24, 2009 -- The Carbon Disclosure Project (CDP) today announced plans to build an improved and upgraded version of its global climate change disclosure system. The system will make available primary information on corporate emissions performance, collected for use by institutional investors, businesses and the world's national regulatory systems, to drive greenhouse gas emission reductions and performance improvements. The provision of high quality data on climate change and corporate carbon footprints will be vital to supporting a global framework post Kyoto, bridging the gap between corporations' climate change reporting and government regulation.

Beginning in 2010 corporations will report to CDP through the new data system which will increase the quality of disclosure globally, meeting the demand from investors for more detailed, consistent, comparable and actionable data. It will streamline reporting for companies by providing enhanced tools and guidance through a single, fully accessible reporting platform. This platform will enable data to be easily shared with and analyzed by institutional investors, corporations and the world's national regulatory systems. With more user friendly output of information, CDP's upgraded system will drive greater use of corporate climate change information within financial and strategic decision making.

CDP is partnering with world leading consulting and technology companies Accenture, Microsoft and SAP to deliver the new version of its data system.

Measurement, reporting and verification of emissions is a vital step for organizations looking to increase awareness of the impact of climate change. It enables them to lower costs by identifying efficiency measures, reduce climate change related risk to the business and also reveal commercial opportunities. It also enables a fuller assessment of senior management's

options with regard to strategic direction, innovations and capital projects. These developments will not only help companies reveal emissions hot spots so they can be better managed, but also help to prepare companies for future regulation.

CDP's Chief Executive Paul Dickinson said: "Climate change is a global issue that requires a global solution. With our new improved data tools and capabilities we are providing a world class reporting platform that will assist in the sharing of high quality climate change data on an international scale and eventually integrate with existing national regulatory systems. This global hub of information will be essential to supporting a global deal post Kyoto."

CDP has selected a consortium of implementation partners. Accenture will work as solution integrator and provide strategic guidance for the implementation of the new reporting platform. "Effective carbon disclosure helps corporations mitigate investment risk and achieve more sustainable performance," said Mark Foster, Group Chief Executive, Management Consulting & Global Markets at Accenture. "The simplicity, standardization and transparency of disclosure will make CDP the de facto process for reporting carbon emissions and an indispensable tool for helping the corporations and governments of the world take action."

Microsoft will work on all aspects of data capture within the new version of the CDP platform, enabling companies to report more detailed and standardized climate change information.

"Gathering and tracking environmental data is one of the biggest challenges facing organizations today," said Rob Bernard, Chief Environmental Strategist at Microsoft.

"Technology and innovation can play a significant role in driving solutions to address the world's environmental challenges. Microsoft is pleased to partner with CDP to deliver a software solution that enables organizations to be more transparent and make decisions that benefit both their bottom line and the environment."

SAP will leverage its SAP BusinessObjects? BI OnDemand solution to store and deliver the carbon disclosure reports and dashboards to users.

"As a driving force behind CDP's carbon benchmarking analytics, SAP technology will provide organizations, investors and governments around the world clarity on progress against carbon reduction targets," said Anirban Chakrabarti, Vice President and General Manager of SAP Carbon Impact.

"Reducing the carbon emissions of both SAP and our 89,000 global customers is a top-level strategic and operational issue for our company. SAP technology enables our customers to measure, report and reduce their carbon emissions and, in doing so, increase the efficiency of their business networks."

For more information please visit
<http://www.cdproject.net/disclosure-system.aspx>

About CDP

The Carbon Disclosure Project (CDP) is an independent not-for-profit organization holding the largest database of corporate climate change information in the world. CDP gathers data through its annual Information Requests on behalf of institutional investors, purchasing organizations and government bodies. Since its formation in 2000, CDP has become the gold standard for carbon disclosure methodology and process, providing essential climate change data to the global market place.

Investor CDP represents some 475 institutional investors, with combined assets under management in excess of \$55 trillion. CDP also works with private and public sector organisations to facilitate the collection of climate change data from their supply chains, as well as with local government to drive emissions reduction and sustainable development in key cities around the world. Some 2,500 major corporations around the globe report their greenhouse gas emissions and the risks and opportunities posed by climate change through CDP.
www.cdproject.net

The Carbon Disclosure Project is a Registered Charity (no. 1122330). In the United States, CDP's sponsor liaison is Rockefeller Philanthropy Advisors, which provides CDP with 501(c)3 charitable status

About Microsoft

Founded in 1975, Microsoft (Nasdaq "MSFT") is the worldwide leader in software, services and solutions that help people and businesses realize their full potential.

About SAP

SAP is the world's leading provider of business software(*), offering applications and services that enable companies of all sizes and in more than 25 industries to become best-run businesses. With more than 89,000 customers in over 120 countries, the company is listed on several exchanges, including the Frankfurt stock exchange and NYSE, under the symbol "SAP." For more information, visit www.sap.com.

(*) SAP defines business software as comprising enterprise resource planning and related applications.

About Accenture

Accenture is a global management consulting, technology services and outsourcing company. Combining unparalleled experience, comprehensive capabilities across all industries and business functions, and extensive research on the world's most successful companies, Accenture collaborates with clients to help them become high-performance businesses and governments. With approximately 177,000 people serving clients in more than 120 countries, the company generated net revenues of US\$21.58 billion for the fiscal year ended Aug. 31, 2009. Its home page is www.accenture.com.